

日本鐵鋼協會記事

理事會 大正十四年四月十四日午後四時半より本會事務所に於て理事會を開き次項に就て協議せり、當日出席者は河村驥、俵國一、今泉嘉一郎、香村小録、鹽田泰介等なり。

1. 工學會總會報告の件。
2. 入退會者の件。
3. 次會講演會開催の件。(イ)四月三十日、X線分析方法より見たる金屬の諸性質、工學士、柿沼宇作君。(ロ)五月二十三日、鋼の鍛冶に就て、工學士、井口庄之助君。(ハ)六月十九日、セメンテーションに關する研究、工學博士、大河内正敏君。
4. 來五月十日 兩陛下御結婚滿二十五年御奉祝儀式執行に付賀表奉呈の件。之は工學會より十三學會を代表し提出することに決議せり。
5. 本會創立第十週年紀念大會開催の件。
6. 其他會務に關する件。(以上可決)

編輯會 大正十四年四月十四日午後四時半より本會事務所に於て編輯會を開き會誌第十一年五號の原稿を選定せり、當日出席者は川上義弘、杉村伊兵衛、三島徳七、山本貞次郎、田中清治等なり。

新入會者

大阪市足田鐵工所社長	正員	足田輝雄	紹介者	後藤正治、大矢喜兵
大連市沙河口工場長	同	武村清	ク	加藤榮、金子恭輔
陸軍砲工學校 砲兵中尉	准員	小林誠一	ク	川上義弘
同 歩兵中尉	同	仁井辰造	ク	同
府下池上村堤方 鑄鋼業	同	鈴木孝一郎	ク	西脇徳和
日本特殊鋼會社 工學士	同	龜岡鎮男	ク	渡邊三郎
同	同	後藤亨	ク	同
盛岡中學校 工學士	同	澤邊赫	ク	浦田彦太郎

退會者

神戸市 金物商	正員	谷川政治郎	大阪市江成町 工學士	正員	藤村忠之
中野町中野海軍造兵中將	同	福田馬之助	大連市聖徳通	准員	水内昇一
有樂町二十一號館 工學士	同	松野千勝			

圖書寄贈

寄贈者		寄贈者	
秋田縣男鹿島油田地質及地形圖説明書	地質調査所	工業原料用鑛物調査報告 第二〇號	地質調査所
秋田縣二井油田 同	同	同 第二一號	同
山形縣大石田油田 同	同	同 第二二號	同

第十回通常總會記事

大正十四年三月二十八日(土曜日)午後三時半より帝國鐵道協會に於て第十回通常總會を開く、出席者は正會員四十二名、准會員四十名なり。出席正會員氏名次の如し。(出席順)

河村 驍	俵 國一	今泉嘉一郎	香村小録	野田鶴雄	富田 基
島安次郎	桂 辨三	島岡亮太郎	加藤 榮	日向庄作	東洋製鐵株式會社
渡邊三郎	内田德郎	川上義弘	鹽澤正一	石田四郎	若林彌一郎
田中清治	永田五郎	梅根常三郎	梅津七藏	石原廣一郎	佐藤作次
木村弘人	林 密	三島德七	佐藤秀松	川部孫四郎	谷山熊雄
秋山正八	松浦春吉	明治電氣株式會社	高橋綱吉	西村啓造	松村鶴藏
松隈三郎	伊藤乙次郎	里村伸二	澁谷澄	東亞通商株式會社	大矢喜兵

開會の辭 (内外製鐵業の趨勢) 會長 河村驍君

○會長(河村驍君) 鐵鋼協會第十回通常總會の開會を宣し、内外製鐵業の趨勢に就て講演せらる、(講演筆記は次號に掲載すべし) 講演の概要次の如し。

則ち最近本邦に於ける鐵鋼の生産能力より出立し歐洲戰前後今日に到れる歐米諸國の鉄、鋼生産量の變化並に是等生産量と市價との關係及各國鉄、鋼輸出額の盛衰等凡て圖表的に之を解明し尙ほ本邦鉄、鋼の生産力は逐年増加の景況を示せることを明にし最後に今回設けられたる鐵鋼調査委員會の結論も亦本邦製鐵業は方法宜しきを得ば經濟的に成立し得るものなりと仄聞し本協會にありても度々評議員會を開催し此際次の如き機關を設置して一般的に原料の調査、技術の研究を實施すべく意見を呈出せりと以て講演を結ばれたり。

第一 製鐵業共同研究機關 第二 共同の原料購買及製品販賣機關

尙ほ本講演中諸外國共に着々其設備を改善し炭炭爐にありてもコッパース式の如く副産物捕集裝置を有するもの増設せられ又製鐵原料として屑鐵の使用漸次盛となれること等極めて興味ある講演にして吾人の注意を惹けるもの少なからざりき。(講演時間一時間二十分)

次に會長(河村驍君) 議長席に着し議事に移る。

○議長(河村驍君) 時間が大變切迫致しました、是から第十回總會の議事に移ります、時間の都合上、豫て御投票を願つて置きました評議員半数改選のことであります、御出席の方で未だ投票を御提出にならぬ御方は此際どうか御投票を願ひます、それで投票を開封するのに時間が掛りますので別室に於きまして致したいのです、立會人として加藤榮君、川上義弘君、鹽澤正一君を御願ひ致します、如何てございませうか。(「異議なし」と呼ぶ者あり)。

○議長(河村驍君) 別に御異議が御座いませればさう云ふことに致します。

○議長(河村驍君) 次に議事に移りまして會務並に會計報告であります。之は刷り物と致しまして御手許に差上げましたが、尙ほ大矢書記長より朗讀する事に致します。(書記長大矢喜兵君朗讀)

大正十三年度會務報告 (自大正十三年三月一日至同十四年二月二十八日)

1. 集會	總會	1回	評議員會	4回	理事會	12回		
	編輯會	13回	講演會	11回				
2. 會員異動								
1. 入會者	贊助會	3名	正會員	36名	准會員	40名	合計	79名
1. 退會者			正會員	36名	准會員	30名	合計	66名
1. 死亡者	贊助會員	田中長兵衛、岸本吉右衛門						
	正會員	田中一、小幡長太郎、小澤重明、中村啓二郎						
	准會員	駒井正枝						

以上7名を喪ひたるは哀悼の至りなり。

殊に本會贊助會員にして前評議員たる田中長兵衛君及岸本吉右衛門君の遠逝は痛惜に堪えざる所なり。

3. 會員總數 (大正十四年二月二十八日調)

贊助會員 10名 正會員 808名 准會員 516名 合計 1,334名

4. 役員異動 編輯委員行方敏三郎君は大正十三年十二月三十一日辭任に付、大正十四年一月七日室井嘉治馬君を編輯委員に廻託せり。

5. 事務所變更 大正十三年十一月五日理事會に於て本會事務所を麹町區有樂町一丁目一番地東七號館内に變更することを決議し同年同月七日同所に移轉せり。

6. 會誌の發行 本會々誌「鐵と鋼」を第十年第三號より第十一年第二號迄毎月一回宛發行せり此内第十年第六號は「支那號」として特別大冊子を發行せり。

7. 會誌を横組に變更の件 大正十四年一月十四日理事會に於て會誌を横組印刷に變更することを決議し同年一月號より實行せり右變更に依り歐文其他計算式等の挿入にも便利なる上他學會と聯合講演會開催の際に於ても印刷物の統一を圖り得るの利便あり。

8. 調査事項

1. 大正十三年九月二十七日評議員會に於て決議の上鐵鋼關稅率改正に關する建議書を作製し同年十月三日内閣總理大臣、大藏大臣、農商務大臣並に關係諸方面へ提出せり。

1. 製鐵業用語選定の件 本會々誌大正十二年一月號より同十四年一月號に至り殆ど毎月掲載せる製鐵業用語は其數 638 語に達したるに付目下編輯委員に於て分擔整理中なり。

1. 共同工學會館建設に關する件 共同工學會館建設に關しては工學會主催十二學會聯合會を開き本會よりは理事鹽田泰介氏委員として出席し大正十三年四月より八回に亘り調査研究會議を重ねたる結果略々社團法人工學會館建設の成案を得たり。

9. 圖書寄贈 本年度に於て寄贈を受けたる圖書部數は合計 116 部なり。

10. 講演會 大正十三年本會に於て開催せる講演會左の如し。

1. 大正十三年三月二十九日

製鐵業の現況	前會長	工學博士	依 國 一
支那製鐵業に就て	漢冶萍煤鐵廠最高顧問技師	工學博士	服 部 漸
F.W磁石鋼に就て	日本特殊鋼合資會社長	工學博士	渡 邊 三 郎

2. 同年四月三十日

石油を燃料とする平爐製鋼作業に就て	日本鋼管株式會社技師長	工學博士	松 下 長 久
新タルビン製材料合金に就て	三菱造船研究所技師	理 學 士	飯 高 一 郎

3. 同年六月十八日

砂鐵の研究に就て	東京帝國大學工學部冶金科教室		梅 津 七 藏
鑄物に關する研究	理化學研究所長	工學博士	大 河 内 正 敏

4. 同年七月二十七日、二十八日 (吳市に於ける機械學會火兵學會及本會聯合講演會)

高速軸承の潤滑と之に使用する油の性状	海軍機關少佐		林 田 恒 雄
鋼の燒戻脆性に就て	吳海軍工廠海軍巡兵中佐	工學博士	吉 川 晴 十
加荷速度が工業用材料の強弱に及ぼす影響に就て		工 學 士	湯 淺 龜 一
十四種砲架の互換式工作に就て	海軍造兵中佐		日 高 鏡 一

航空機の進歩と航空學術の研究

航空研究所長 工學博士 斯波忠三郎

地寶に恵まれざる我國民の覺悟

京都帝國大學教授 工學博士 齋藤大吉

5. 同年九月二十四日

鐵鑛の還元就て 明治鑛業株式會社技師、マスター、オブ、サイエンス 嘉村平八

英佛獨米の鐵及石炭に就て 農商務省地質調査所長 工學博士 井上禱之助

6. 同年九月二十九日 (日本鑛業會と聯合講演會)

樺太視察談 秋田鑛山專門學校長 工學博士 横堀治三郎

7. 同年十月二十九日

電解鐵薄板の一新製法 三菱造船所研究技師 工學士 八田四郎次

銑鐵の硫黃を定量する方法に就て 理化學研究所 理學博士 和田猪三郎

8. 同年十二月十日

鋼の軟化に就て 大阪住友製鋼所 工學博士 齋藤省三

帝國主義政策と鐵工業との關係を論じて本邦製鐵業の前途に及ぶ
東京帝國大學講師 經濟學士 小島精一

9. 同年十二月十三日 (機械學會日本鑛業會火兵學會及本會聯合講演會)

歐米の鐵工業研究機關に就て
金屬材料研究所長 理學博士 本多光太郎

10. 大正十四年一月二十六日 (日本鑛業會と聯合講演會)

久慈地方の砂鐵鑛に就て 米國ドレッヂング、マイニング會社社長 ジェー、ダブルユー、ニール

11. 同年一月三十日

八幡製鐵所製鋼作業の現況及我國製鋼事業の將來に對する私見

附、末兼要氏の「八幡製鐵所の經營狀態に就て」に就て

八幡製鐵所技師 工學士 久保田省三

以上

右報告候也

大正十四年三月二十八日

日本鐵鋼協會々長理事 河村 颯

大正拾參年度收支決算報告 (自大正十三年三月一日至大正十四年二月二十八日)

收 入 之 部		利 子		円
正 會 員 會 費	6,101.26	雜 收 入		1,691.08
准 會 員 會 費	3,225.00	寄 附 金		451.42
贊 助 會 員 寄 附	500.00	火 災 保 險 金 領 收		3,000.00
終 身 會 員 會 費	600.00	家 屋 賣 却 代 償 金		1,770.00
入 會 金	89.00	合 計		2,000.00
廣 告 料 金	1,574.19			21,001.95

支出之部	
會誌印刷費	5,751.26
原稿料	210.16
約束郵便料	183.93
事務費	1,396.07
報酬及手當金	3,643.00
地代及借室料	872.60

會合費	
什器	560.81
圖書費	123.35
工學會費	200.00
合計	13,722.66
收支差引	7,279.29
(資産中へ繰入)	

財 産 目 録

	大正12年度末	大正13年度末
家屋賣却代金未収入額	—	2,000.00
什器	93.04	654.82
圖書	105.32	223.67
銀行預金	14,131.39	5,967.90
建物維持資金	1,002.46	(家屋焼失=)
振替貯金	372.54	596.60
會誌發行擔保	907.00	907.00
振替貯金基本	10.00	10.00

	大正12年度末	大正13年度末
約束郵便擔保	20.00	35.00
北海道拓殖銀行債券	6,022.60	9,850.00
京阪電氣鐵道會社々債	—	9,775.00
東京電燈會社々債	—	2,919.00
借室料敷金	—	285.00
合計	22,965.35	33,228.99
財産増加額	—	10,263.64

大正拾四年度收支豫算 (自大正十四年三月一日至大正拾五年二月廿八日)

收入之部	
正會員會費	6,300.00
准會員會費	2,880.00
贊助會員寄附	500.00
入會金	100.00
廣告料金	800.00
銀行預金及振替貯金利子	650.00
公債及社債利子	1,890.00
雜收入	450.00
寄附金	2,000.00(大會寄附金)
家屋賣却代償金	2,000.00
合計	17,570.00

支出之部	
會誌印刷費	7,000.00(大會印刷費を含む)
原稿料	360.00
約束郵便料	210.00
事務費	1,500.00
報酬及手當金	3,170.00
借室料	1,140.00
會合費	1,640.00(大會開催費を含む)
什器	200.00
圖書費	150.00
工學會々費	200.00
合計	15,570.00
收支差引	2,000.00(資産中へ繰入)

右及報告候也

大正拾四年三月二十八日

日本鐵鋼協會會長理事 河 村 曉

○議長(河村曉君) 只今書記長より朗讀致しました内本期中特に目立ちました事項の概要を申し上げたいと思ひます。本期中講演會を開くこと十一回に及びましたことは各方面の御同情の賜物でありまして講演者の御盡力並に講演者の出張に就き各工場の幹部の方々の御厚意に對し深厚なる謝意を表する次第であります。會館に就きましては震災後工業俱樂部内鐵山懇話會の事務室の一隅を借受けて事務を採つて居たのでありますが幸に丸の内東七號館の一室を借受けることを得まして昨年十一月から獨立の世帯を持つことが出來ました。尙ほ昨年春以來工學會に於て他の十二學會と聯合して共同の會館を建設する議が起りまして各學會より委員を選出し本會よりは鹽田理事が委員として出席せられ前後八回の會議の結果此程略々成案が得られたのであります、それは十三學會を以て社團法人を組織し建築學會の敷地182坪86を買收し約60萬圓の資金を以て總建坪1,014坪、7階建の

會館を建築する豫定で資金60萬圓の内20萬圓は工學會が出資する(無論工學會に於て寄附金を募集する)又20萬圓は各學會協會より會員數に比例案分して出資する、本會の割付豫定額は1.2萬圓となつて居ります、残り20萬圓は債券發行に依り調達する豫定であります。各學會に對する事務室貸付借用料は1坪2圓とし剩餘室は他へ貸付収入を計る、大體斯う云ふ様な計畫でありまして本會が假りに10坪の事務室を借受けることに致しますと會の負擔は大體に於て今日借家致して居るのと大差はない豫定でありまして講堂とか圖書室、食堂等を共通に使用することが出來且つ各學會の連絡上に於ても極めて便宜がある、斯う云ふ利益があるのでありますから此際皆様の御承認を得まして將來右の協議を進ますことに就て役員會に機宜の處置を取ることを御一任願ひたいと思ひますが、御異議は有りませんでしやうか。(「異議なし」呼ぶものあり)

○議長(河村曉君) 御異議がない様でありますから役員會御一任になりたるものと認めます。

其他の件と致しましては本會々誌を本年一月より横組に致し聊か時代の要求に應じたこと及び會計の状態は稍々改善の形勢を呈して居ることあります。尙ほ豫算の中寄附金2,000圓(大會開催に付)とありますのは丁度本年は本會創立十週年に當りますので本年秋期を期し大會を開會致したいのでありまして一般有志及會員より募集するとなつて居ります。以上會務並に會計報告等を一括して別に御質問等は御座いませぬか。(「異議無し」と呼ぶものあり)

○議長(河村曉君) 別に御質問が御座いませぬければ總て御承認を経たものと認めます。

○議長(河村曉君) 只今評議員半數改選の結果が解りましたから御報告致します。

○加藤榮君 只今投票を開票致しました所110票であります、其の結果を申し上げます。評議員に多數で當選になりましたのは井上禧之助君107票、井上匡四郎君109票、磯村豊太郎君108票と云ふ具合で後は1票乃至4票の差でございますから申上げる事を略します。即ち次の通り選舉せられました。

井上禧之助君	井上匡四郎君	磯村豊太郎君	服部 漸君	本多光太郎君
大河内正敏君	桂 辨 三君	種子田 右八郎君	堤 正 義君	向 井 哲 吉君
野 田 鶴 雄君	松 下 長 久君	松 浦 善 助君	福 田 庸 雄君	江 藤 捨 三君
三 好 重 道君	島 岡 亮 太 郎君	末 兼 要君	一 色 虎 兒君	島 安 次 郎君

○議長(河村曉君) 是で總會を閉じます。時に午後五時十分。(拍手起る)

講演會 續いて次の講演會ありたり。(午後五時二十分開演)

鞍山製鐵所に於ける貧鐵處理に就て 鞍山製鐵所技師 工學士 梅根常三郎君
本講演概要次の如し。

先づ鞍山製鐵所設立の経緯と其の歴史より説き起し次で製鐵所の位置及製鐵原料に關して其の概要を述べられし後、鞍山の鐵鑛と貧鐵處理の必要なる所以並に本問題解決の成敗が我國製鐵に及ぶ影響に論及し更に貧鐵處理法の研究と其経過及び鞍山式選鑛法に就て多年御苦心の跡を詳細に説明せられ最後に將來の實行方針及希望を述べられたれば時節柄極めて有益にして興味多き講演なりき。(講演時間二時間半)

懇 親 會 狀 況

暫時休憩の上、午後八時十分より鐵道協會會堂に就て懇親會を催ふす、出席者氏名(十九名)次の如し。

河 村 曉	俵 國 一	今 泉 嘉 一 郎	香 村 小 録	野 田 鶴 雄
島 安 次 郎	桂 辨 三	日 向 庄 作	渡 邊 三 郎	鹽 澤 正 一
梅 根 常 三 郎	石 原 廣 一 郎	川 部 孫 四 郎	秋 山 正 八	松 浦 春 吉
松 隈 三 郎	南 滿 洲 鐵 道 株 式 會 社	佐 々 本 彦 太 郎	大 矢 喜 兵	

宴會の半に於て河村會長の挨拶あり、續いて今泉博士、野田博士、俵博士、島博士、香村博士、石原廣一君等の卓上演説ありて一同歡を盡し、午後九時半散會せり。(同演説速記は次號に掲載すべし)